

「第54回中学を卒業する交通遺児を励ます集い・
二十歳を迎える交通遺児を励ます集い」励ましの言葉

岐阜県教育委員会
学校安全課長 大和谷 淳

新しい門出を迎えるあなたに、2025年夏の甲子園で日本中を熱狂させ、16年ぶりとなるベスト4への進出を果たし、地元に大きな感動を呼び起こした岐阜県立岐阜商業高等学校の選手たちの物語を添えて、エールを送ります。

同校の快進撃を支えた一人に、左手にハンディキャップをもつ横山温大（よこやまはると）選手がいました。彼は「自分にしかできないことがある」と信じ、人一倍の練習で、右手でボールを捕球した後、瞬時にグローブを脇に抱えてボールをもち替え、素早く送球する技術を習得しました。準決勝で彼がヒットを放ち、全力でダイヤモンドを駆ける姿は、多くの人に自分を信じ、道を切り拓く勇気を与えました。

また、エースの柴田蒼亮（しばたそうすけ）投手は、ピンチの場面でも「どんなときも笑顔で余裕をもって抑えたい」という信念を貫きました。準決勝では、延長戦の極限状態でも「楽しもう」と自分を奮い立たせ、147球目にして時速144キロという自己最速の球を投げ込むなど、マウンド上で見せる明るさと闘志がチームに勇気を与えました。

同校の選手たちが証明したように、「困難を味方につける強さ」と「前向きな心」があれば、道は必ず開けます。これから人生の新たなマウンドで、あなたらしい「最高の笑顔」で一步を踏み出し、あなたの場所で輝いてください。あなたの未来が、甲子園の青空のように晴れやかなものになることを心から応援しています。